

3月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

「三池や ニュースとび込む 嘘の音」。3月は日本中で「・池」という3人がマスメディアに露出し、「それ、嘘？本当？」の戦いを演じ、今も続いている。リーダーとしての在り方、お金の使い方、記録の残し方などで学ぶこと大であった。

3月はまた別れの季節である。「会うは別れの始めなり。さよならだけが人生さ」。悲しいかもしれないが、別れは出会いの始まりでもある。次なる場所で、桜のエールを受けながら新しいことにチャレンジしたいものである。

4月から孫息子が嫁の実家から戻り家族が一人増える。爺は再び荒野を目指す。

1・テレビから

◆「“できるだけ”何かを行うという態度は、事に当たって初めからすでに誘惑に屈していることになります」〈NHKテレビ・100分de名著・ガンディー『獄中からの手紙』〉

言葉は「言霊」と言われるように無意識のうちに発した人の心の状態を表している。「できるだけがんばってみます」とよく使うが、「できるだけ」と発した時点で「そんなにがんばれないよ」と自分自身に言い訳をしているようなものか。

◆「果報は動いて待て」〈NHKテレビ・プロフェッショナルの流儀〉

美術品オークションに出品する作品を世界中から発掘して出品する仕事をする人の信条である。通常「果報は寝て待て」と言われるが、作品が見つからなくても色々な所へ出掛けて色々な人に会っているうちに、そのネットワークから掘り出し物が見つかるという。感動は動かなければ見つからない。燃えなければつかめない。

2・読書から

◆「ガンディーがインドと世界に伝えたいと思う福音は何かと問われると“わたしの全生涯がわたしのメッセージです”と」〈人類の知的遺産・ガンディー〉

かつてレフリーを頑張っていた知人の先生が「私がルールブックだ！」と豪語していたことがあった。私も棺桶に片足を入れた時に照れながら「私の生涯が……」と言ってみたくものである。改めて映画『ガンディー』を観た。ガンディーの人生に自分が照らされている。あそこまでやってみた人がいる。お前はどうか。

3・新聞等のコラムから

◆「めんどくさいと気持ちに、どうしても負けてしまうのだ。これはもう一種の犯罪……。他人ではなく自分自身に対する犯罪だ」〈朝日新聞・折々のことば・穂村弘〉

かつて元プロ野球監督の野村克也氏が書いた『敵は我にあり』という本を読んだことがある。うまくいかない原因のほとんどは自分自身にあるという。加齢を華麗に乗り切るためには「めんどくさい」お化けとの戦いである。好きなことをとことんやるしかない。

4・クリニックレジメの言葉から

◆「強くなりたいと思っているときに最も強く、強くなったなと思ったときは弱くなり始めているときである」〈山崎純男『チームを創る』より〉

中学、高校と何度も全国制覇を成し遂げた名将の言葉。決して現状に満足せず、常に最高の自分を目指して自己練磨する。コーチは常に不満足なソクラテスでなければならない。